

## 執筆者紹介（掲載順）

### 藤井 英男（ふじい ひでお）

1979年東京大学経済学部経営学科卒業後、日本郵船（株）入社。不定期船及び定期船の配船・営業、本社経理・関連事業を主に担当。海外現地法人（英国、韓国）及び国内子会社の管理部門なども幅広く担当。2010年9月より日本内航海運組合総連合会 調査企画部長。

### William A. Howard

英国の弁護士。Londonにある法律事務所Reed SmithのPartnerでThe Supreme Court of England and WalesのSolicitor。海事関係ではCharter Party, B/L や造船契約などの分野で活躍。2011年11月にはReed Smithの他のPartnerと来日、日本海運集会所で海賊問題やRotterdam Rulesについて講演、日本でも多くの関係者がいる。連絡先、William Howard Partner, Shipping Group of Reed Smith +44(0)20 3116 2991 (direct), +44(0)777 167 7678 (mobile), E-Mail whoward@reedsmith.com

翻訳者 東町法律事務所 田中庸介、手塚祥平、平良夏紀 各弁護士

同法律事務所は神戸が本部ながら東京、今治にも進出、海事関係にも力を入れている。今回の日本海運集会所のReed SmithのSeminarでも田中庸介弁護士が日本語解説を行った。このReportの全内容は東町法律事務所のH/P (<http://www.higashimachi.jp/>) コラム欄で閲覧できる。 info@higashimachi.jp

### 新井 真（あらい まこと）

1983年上智大学法学部卒業後、川崎汽船（株）入社。人事課長、不定期船グループ、経営企画グループ等にて勤務の傍ら、日本船主協会会長秘書、政策幹事長、解撤幹事長、環境幹事長を歴任し、現在、川崎汽船（株）IR・広報グループ長。2009年早稲田大学にて博士号（法学）取得。博士論文「自然資源損害賠償と懲罰的損害賠償の接点～エクソン・ヴァルディーズ号事件を契機とした米国の動向とわが国における射程～」は2010年山縣勝見賞（論文賞）を受賞。研究分野は民法、環境法、法社会学等。他に主要論文として、「自然資源損害評価の諸相～環境に値段をつけることの是非～」、「自然資源損害賠償と人身損害賠償の接点」、「シップリサイクルにおける『ゆりかごから墓場まで』」がある。日本私法学会、日米法学会所属。

### 合田 浩之（ごうだ ひろゆき）

1991年東京大学経済学部経済学科卒業後、日本郵船（株）入社。現在調査グループ総合調査チーム所属。博士（法学、筑波大学）。東海大学海洋学部や一橋大学商学部の講師を歴任し、現在日本工業大学大学院技術経営研究科客員教授。2010年『コンテナ物流の理論と実際』（石原伸志氏との共著）で住田正一海事奨励賞、日本物流学会賞並びに日本港湾経済学会北見俊郎賞を受賞。研究テーマは、国際商取引、港湾経済、海運経済、北極海航路、便宜置籍船、海運史等。山縣記念財団にも「便宜置籍船～その法的・経済的意義の再検討～」(2005年)、「船舶解撤業と環境～印度の試み～」(2008年)と2度の寄稿がある。日本海運経済学会、日本港湾経済学会、日本貿易学会、国際商取引学会等に所属。

### 清水 一道（しみず かずみち）

1986年北海道大学工学部機械工学科卒業後、新日本製鐵（株）機械プラント事業部入社。その後、大分高専制御情報工学科及び機械工学科助教授等を歴任の間、北海道大学にて博士号（工学）を取得。更に室蘭工業大学材料物性工学科助教授、ものづくり基盤センター・材料物性工学科准教授、もの創造系領域材料工学ユニット・ものづくり基盤センター兼務准教授を経て、2011年もの創造系領域材料工学ユニット教授、ものづくり基盤センター センター長に就任。専門は、機械材料学、トライボロジー、設計工学、材料力学。ものづくりコラボレーション特別奨励賞（2011年）をはじめ、ものづくりに関する十指に余る受賞に加え、国土交通省平成23年「海の日」海事関係功労者大臣表彰も受賞。多くの著書、論文の執筆活動に加え、室蘭シップリサイクル研究会座長等、政府・団体の委員なども歴任。日本機械学会、日本トライボロジー学会等に所属。

### 古井 恒（ふるい ひさし）

1980年(株)日通総合研究所入社。国や地方自治体からの委託テーマに関わる事が多く、主に港湾物流の調査・研究に従事。在職中の1994年、流通経済大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。その後流通経済大学に転出し、専任講師を経て、2008年流通情報学部教授となり現在に至る。専門分野は、港湾経済論、流通論、環境経済論、リサイクル物流。主要論文として「リサイクル物流と港湾」等。日本港湾経済学会、日本物流学会所属。

### 高嶋 恭子（たかしま きょうこ）

東海大学海洋学部航海工学科を経て、2009年東京海洋大学大学院博士後期課程を修了し、工学博士となる。この間約2年間、内航商船に3等航海士として乗船。2010年より、東海大学海洋学部において講師となり、主に、ウェザー・ルーティングを利用した船舶の省エネルギー運航についての研究、内航船向け最適航海計画支援システム“ECoRO”の研究・開発に携わる他、最近では、船員教育についても研究している。主要論文に、「ウェザー・ルーティングによる燃料節約～コンテナ船の航海データを用いたシミュレーション～」、「到着遅延リスクを考慮した内航船の省エネルギー運行について」等がある。日本航海学会所属。NPO法人マリン・テクノロジストの研究ボランティア会員。

李 志明（い じみょん）

2008年東京海洋大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。（財）日本海事センター（現公益財団法人）を経て、現在、流通科学大学商学部講師。専門はグローバルロジスティクス。主に、企業拠点の国際間移動に関する研究を行ってきたが、近年は物流政策や海運政策も研究している。主要論文には、「企業拠点の国際間移動の実態とカストロフィー理論を用いたモデル化に関する研究」、「国際海運におけるCO2排出規制の動向とEU規制による船社の負担額の分析」などがある。日本物流学会、日本海運経済学会所属。

小路丸 正夫（こうじまる まさお）

1967年長崎大学経済学部経済学科卒業後、安田火災海上保険（株）（現在の（株）損害保険ジャパン）入社。海損部貨物第二課長、安田マリンサービス（株）損害調査部長などを経て、日本船主責任相互保険組合損害調査部へ転籍し、2009年退職。この間、海上保険クレーム、火災新種保険クレーム、貨物賠償クレーム等を担当。著書に『貨物海上保険・貨物賠償クレームのQ&A』、最近の論文に、「保険における因果関係理論についての考察」、「損害保険における保険事故の研究」、「因果関係の研究」、「保険法の理論的考察」がある他、「万凜遊」のペンネームで著書『行動するあなたへ』や海上保険に関する多くの論文と海事法に関する幾つかの論文がある。

坂本 久（さかもと ひさし）

（財）山縣記念財団理事。1971年 山下新日本汽船（株）入社。経理部、遠洋部、ロンドン駐在、鉄鋼原料グループリーダーを経て1993年に退職。1993年～1999年安田火災海上保険（株）、1999年～2010年（株）センチュリーチャーターリング（同期間中は日本郵船（株）不定期船グループ、NYKグローバルバルク（株）及び日本郵船（株）製鉄原料グループに出向勤務）。通算で約30年間を不定期船関連の業務に従事。2010年7月から（財）山縣記念財団の研究員を経て2011年7月理事に就任。

（敬称略）

